

「実行機能」の視点を用了 効果的なアセスメント及び支援に関する研究 ー 実行機能に困難のある対象者の支援に関する調査から ー

- 宮澤 史穂（障害者職業総合センター 上席研究員）
- 渋谷 友紀（障害者職業総合センター）
- 三浦 卓（元障害者職業総合センター）

背景と目的

- 実行機能とは

ある目標を達成するために思考と行動を調整する
認知機能

- 実行機能に困難があると・・・

仕事の手はずや段取りが悪い

時間内・期限内に仕事を終わられない

といった課題が生じることが想定



実行機能に困難がある対象者の支援の実態について調査

本研究で用いる実行機能の定義

BRIEF-A (Gioia & Isquith, 2000)の下位尺度に従う

下位尺度名	定義
抑制	衝動をコントロールし、言語的、注意的、身体的な行動を適切なタイミングで止めることができる。
シフト	状況に応じて、ある状況、活動、又は問題の側面を自由に移動し、問題解決をサポートするために柔軟に考えることができる。
情緒のコントロール	感情的な反応を適切に調節することができる。
セルフモニタ	自分の行動が他人に与える影響を認識することができる。
開始	外部から促されることなく、課題や活動を始めることができる。
ワーキングメモリ	タスクを完了するために、情報を心に留めておくことができる。
計画・組織化	将来の出来事を予測することができる。 目標を設定することができる。 タスクを実行するための手順を事前に作成することができる。 段階を踏んでタスクを進めることができる。 目的を達成するために情報や行動を組織化し、体系的にタスクを実行することができる。
タスクモニタ	タスクの実行中又は終了後に、ミスがないかパフォーマンスを評価することができる。
道具の整理	仕事場や生活空間を整頓し、タスクに必要な資材を管理することができる。

方法

●調査対象

地域障害者職業センター52所（支所を含む）、
広域障害者職業センター2所、職業センター

●本発表の対象とした調査項目

- ・ 実行機能の困難が生じている対象者への支援経験の有無
- ・ 対象者の支援事例（最大3事例）
- ・ 実行機能に困難のある対象者の支援で苦慮すること

●調査方法と期間

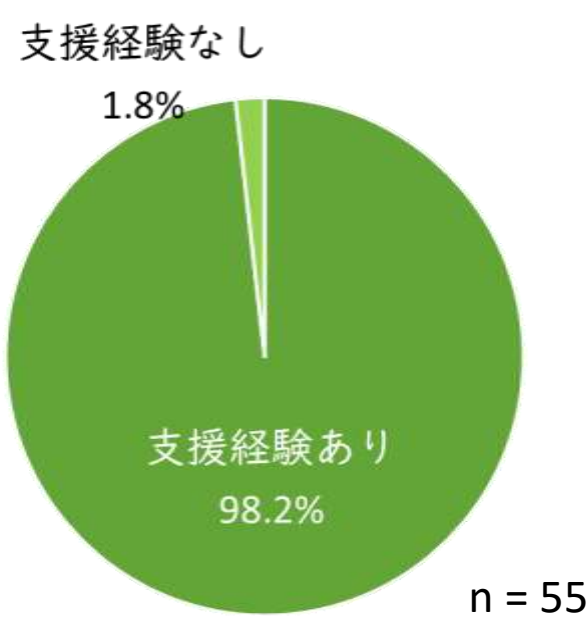
質問紙調査とし、2023年7月～8月に実施

方法

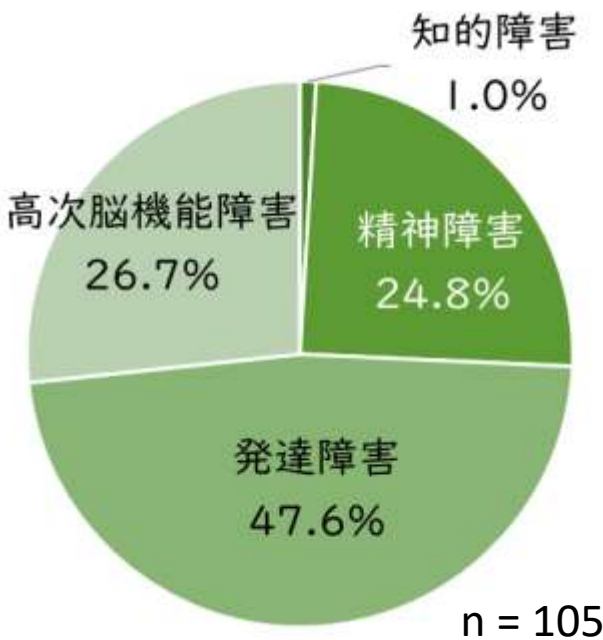
下記のいずれか又は複数の困難が生じている対象者についての質問

- ・衝動をコントロールできない
- ・状況に応じて行動や考え方を柔軟に変えることができない
- ・感情的な反応を適切に調節することができない
- ・自分の行動が他人に与える影響を認識することができない
- ・自発的に課題や活動を始めることができない
- ・作業を完了するために、情報を記憶することができない
- ・目標を設定することができない
- ・段階を踏んで作業を進めることができない
- ・作業を実施するための手順を事前に作成することができない
- ・作業の実施中や終了後に、ミスがないか確認して評価することができない
- ・仕事を整頓し、作業に必要な道具を管理することができない

結果

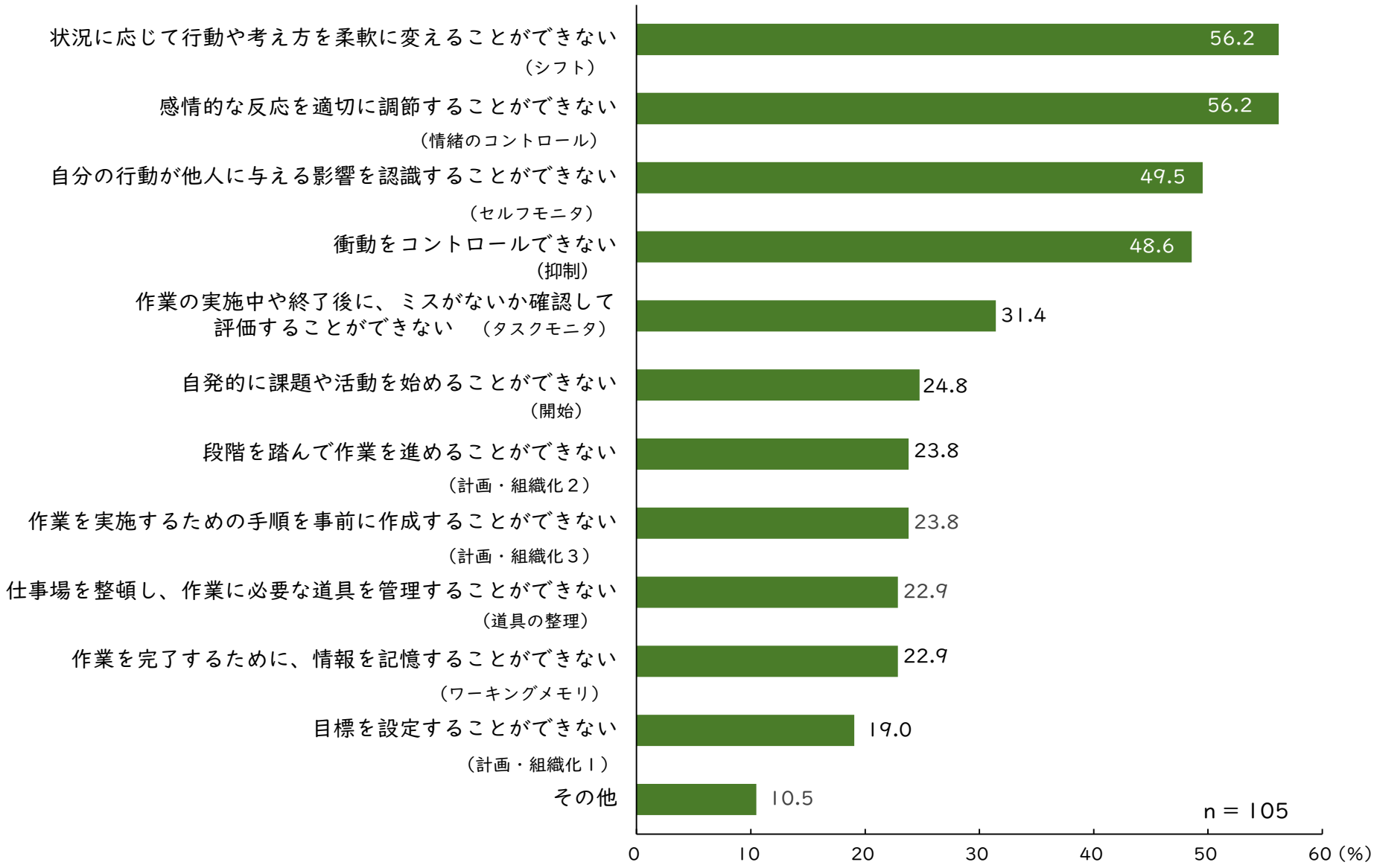


支援経験の有無



対象者の主な障害種類

結果 | 対象者に生じた困難



結果 | 事例の回答例

①対象者に生じた困難

- ・目の前のことのみに集中するため周囲の状況を把握することが困難
- ・差し込み作業が生じた際に元の作業に戻ることができない

②支援の内容

- ・単独作業スペースを確保し、余分な情報を遮断
- ・支援スタッフと相談しながら作業遂行計画をたてるようにした

結果 | 事例の回答例

③ 支援の経緯や理由

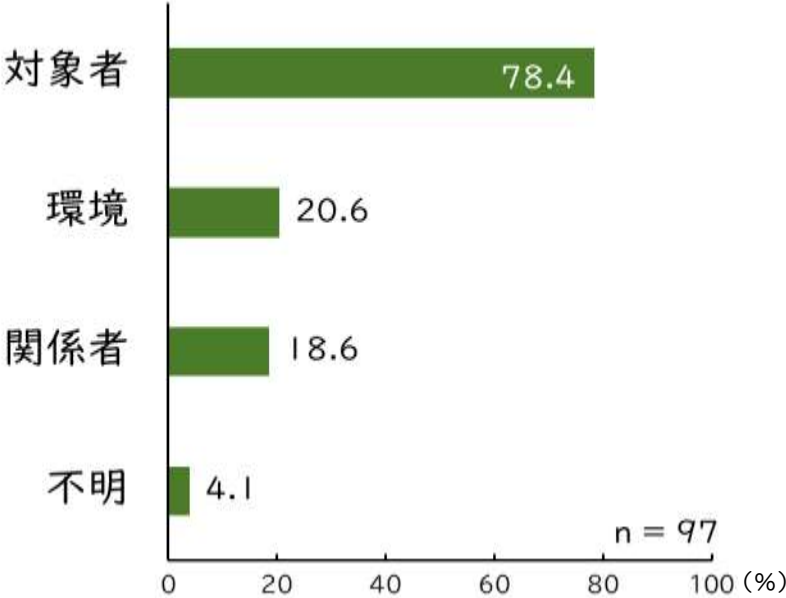
自らの処理方法に固執してミスを発生する様子があり、支援スタッフとの相談を通じて作業遂行を行うことでミス軽減が図られることが確認されたため

④ 支援結果

- ・ 周囲から「〇〇さんの作業スペースは確保することが望ましい」と理解を得やすくなった
- ・ ミスが減少できたことで「支援者と相談するメリット」を実感することができた

結果 | 支援事例の分類

「支援の内容」の記述を分類→支援の対象に注目



・ 単独作業スペースを確保し、余分な情報を遮断

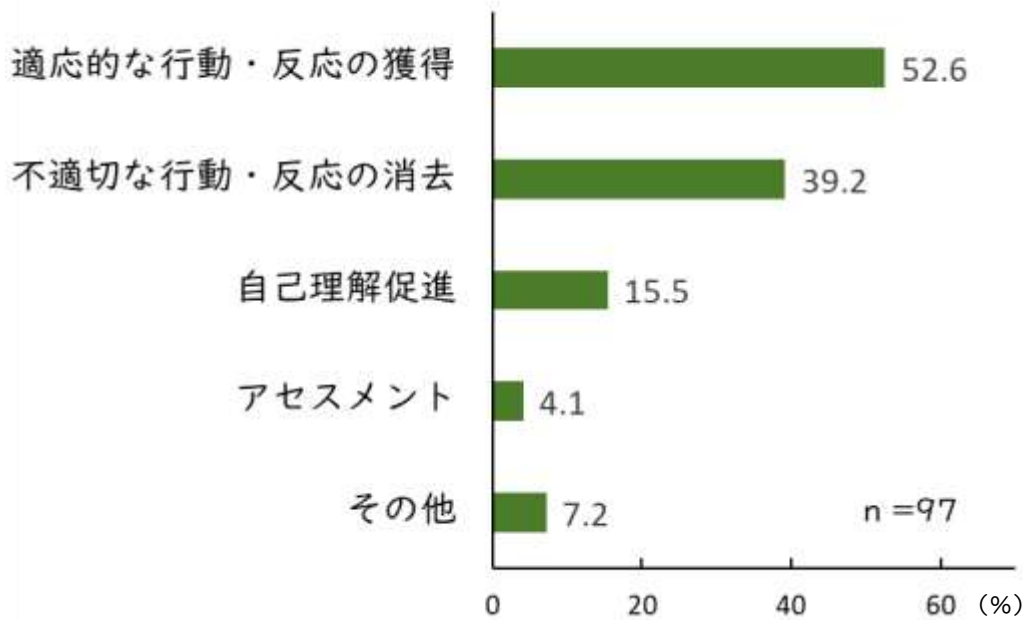
・ 支援スタッフと相談しながら作業遂行計画をたてるようにした



➡ 環境・対象者

結果 | 支援事例の分類

「支援の経緯や実施した理由」を分類

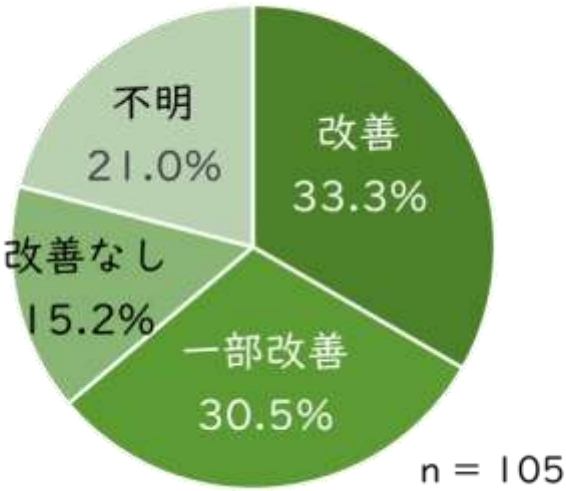


自らの処理方法に固執してミスを発生させる様子があり、支援スタッフとの相談を通じて作業遂行を行うことでミス軽減が図られることが確認されたため

➡ 適応的な行動・反応の獲得

結果 | 支援事例

「支援の結果」の記述を分類→課題の改善状況に注目



・ 周囲から「〇〇さんの作業スペースを確保することが望ましい」と理解を得やすくなった。

・ ミスを減少できたことで「支援者と相談するメリット」を実感することができた。



➡ 改善

約6割の事例で改善がみられた

結果 | 支援で苦慮すること

カテゴリー	件数	内容
対処スキル・対処法の検討・獲得	25	・ 対処法の検討が難しい ・ 支援の効果が見えない（検証が難しい） ・ 対処法の本人への受け入れが難しい ・ 理解してもらうような説明が難しい
自己理解の促進	17	・ 本人に困り感や課題認識がない ・ 本人の障害理解が進まない
アセスメント	10	・ アセスメントが難しい ・ 問題が表出する場面が限定されている（設定が難しい）
学んだことの実践	10	・ 般化が難しい ・ 対処法を実行できない
関係者に関すること	10	・ 支援者や家族など周囲の負担が大きい ・ 周囲の理解、配慮を得るのが難しい
対象者の具体的な状態像	7	・ 感情コントロールが難しい場合、相談場面で怒ったり感情が乱れて、冷静に話をしたりふり返ることができない。
その他	9	・ 個別性の高い支援が必要（マンパワーが必要） ・ 一貫した対応の必要性

まとめ

実行機能に困難のある対象者の状態像、対象者の支援について、回答の全体的な傾向の把握を試みた

- 対象者像

「シフト」「情緒のコントロール」に関する困難が多い

- 対象者への支援

「対象者本人」への働きかけのみでなく、
「環境調整」や「関係者への支援」も実施

まとめ

● 支援結果

約6割の事例で課題の改善が見られたが、
改善が見られない事例も一定数

● 支援で苦慮すること

支援の効果が見えない

➡ 実行機能の課題改善の難しさ

● 今後の課題

- 本発表で示した結果は回答内容の分類にとどまる
- 分類結果を用い、実行機能と下位項目との関連等について引き続き検討